防災マップ

すぐに持ち出せる場所に保管しましょう。

緊急避難場所・避難所（避難施設）一覧

No.	名　称	海抜(m)	地震・津波 緊急避難場所	地震・津波 避難所（避難施設）	風水害時	電話番号
①	中芸高校	20	○	○	○	38-2914
②	田野小学校	4.5	○		○	38-2109
③	田野町役場	4	○		○	38-2811
④	八幡神社	15.9	○			
⑤	八王子宮	40.7	○			
⑥	田野中学校	10.5	○	○	○	38-2408
⑦	第１津波避難タワー	15.5	○		○	
⑧	第２津波避難タワー	15.9	○		○	
⑨	第３津波避難タワー	15.6	○		○	
⑩	第４津波避難タワー	16	○		○	
⑪	第５津波避難タワー	15.9	○		○	
⑫	第６津波避難タワー	15.3	○		○	
⑬	淘汰地区避難場所	18.2	○			
⑭	大野地区集会所	78.2		○	○	
⑮	北張地区集会所	69.9		○	○	
⑯	中野地区集会所	28.5		○	○	
⑰	田野町体育センター	4.6			○	32-1206
⑱	ふれあいセンター	3.6			○	38-2511
⑲	保健センター	4			○	38-8211
⑳	その他集会所				○	

※地震・津波時の緊急避難場所は、②田野小学校は、２階・体育館とする。③田野町役場は、３階・屋上とする。

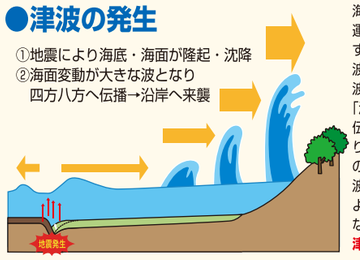
田野町

津　波

津波のしくみと特徴

●津波の発生

①地震により海底・海面が隆起・沈降
②海面変動が大きな波となり
　四方八方へ伝播→沿岸へ来襲



海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向によって断層は、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。**津波は引き波で始まると限らないのです。**

●津波のスピードは速い！

海を伝わる津波の速さは、沖合でジェット機並み、海岸付近でも新幹線並です。

●津波は海からくる洪水！

特に引き波は流れが速く、50cm の津波で海に引き込まれ行方不明になったケースがあります。

●津波の高さは想像を超える！

津波は長時間に渡り影響を及ぼす非常に波長の長い波で、海岸の地形によっては数倍の高さに達することもあります。

●引き浪で津波が始まるとは限らない！

いきなり大きな波が襲ってくることもあります。

津波から身を守る 4つの心得

1 小さな揺れでも油断禁物！

地震の揺れは小さくても大津波の危険性はあります。特に津波の危険地域では小さな揺れでも油断せず、まずは避難を最優先させましょう。

2 デマや俗説を過信するな！

デマや俗説を過信せず、ラジオ、テレビなど気象庁の津波情報を聞き、正確な情報のもと、素早い避難行動を取りましょう。

3 車は使わない！

車での避難は渋滞を生み、被害を拡大させます。原則として車での避難はやめましょう。

4 「遠く」よりも「高く」に！

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所に避難しましょう。浸水が始まったら近くの高いビル又は丘など少しでも高い所に避難しましょう。この場合も、できるだけ海岸から離れたビルを選ぶことが賢明です。

津波から身を守る大原則は すぐ避難

津波のしくみ・避難行動

津波警報・注意報

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約３分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。また、田野町でも避難指示（勧告）を発表します。

津波警報・注意報の分類・とるべき行動

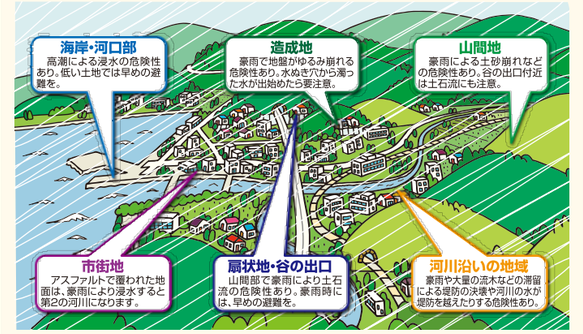
種　類	予想される津波の高さ 数値での発表（発表基準）※	予想される津波の高さ 巨大地震の場合の表現	とるべき行動	想定される被害
大津波警報（特別警報）	10m超（10m＜予想高さ）	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに安全な場所へ避難してください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
大津波警報（特別警報）	10m（5m＜予想高さ≦10m）	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに安全な場所へ避難してください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
大津波警報（特別警報）	5m（3m＜予想高さ≦5m）	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに安全な場所へ避難してください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	3m（1m＜予想高さ≦3m）	高い	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに安全な場所へ避難してください。	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m（20cm≦予想高さ≦1m）	表記しない	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

マグニチュード８を超える巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、第１報では津波の予想される高さは数字ではなく、「巨大」、「高い」という言葉で「非常事態」であることを伝えます。その後、詳細な地震の規模が判明した段階で、予想される津波の高さを数字で発表します。 ※発表基準は、変更される場合があります。くわしくは気象庁ホームページをご確認下さい。

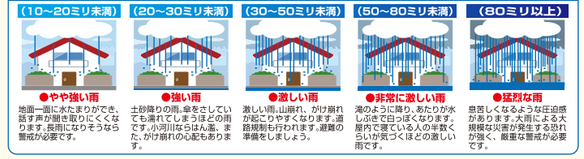
風水害

ゆとりをもって早めの避難を！

台風や豪雨の威力は計り知れないものがあり、人命や財産などに大きな被害をもたらします。
自分の住んでいる地域の地形や地質をしっかり把握し、日頃から気象情報などに十分注意しましょう。



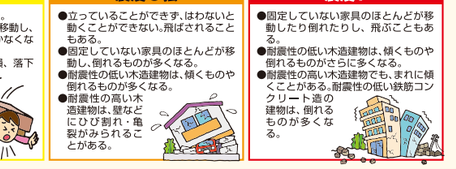
雨の強さと降り方（１時間雨量）



水位観測所での判断基準

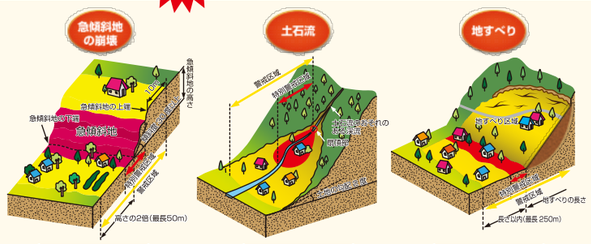
洪水予報河川

国や県が避難等の参考となる水位を定め、河川の増水により観測所の水位がこれに到達したときは、水防管理者（市町村長）に通知し、報道機関を通じて住民に周知する。



土砂災害

土砂災害の前兆・避難情報



土砂災害警戒区域

●傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
●急傾斜地の上端からの水平距離が10m以内の区域
●急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍（50mを超える場合は50m）以内の区域

土砂災害警戒区域

●土石流の発生のおそれのある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

土砂災害警戒区域

●地すべり区域（地すべりしている区域または地すべりするおそれのある区域）
●地すべり区域下端から、地すべり地塊の長さに相当する距離（250mを超える場合は、250m）の範囲内の区域

土砂災害特別警戒区域

●土石等の移動などにより建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動などに対して住民の生命等や身体に著しい危害が生ずるおそれのある損壊を生ずることなく耐えることのできる力の大きさを上回る区域

こんなときはどうすればいいの？

土砂災害警戒情報に注意しながら、がけ崩れの前兆現象や雨の状況を確認して、避難の準備や避難をしましょう。

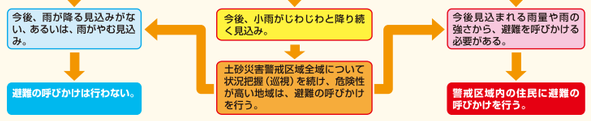
土砂災害警戒情報に注意しながら、崖崩れの前兆現象や雨の状況を確認して、避難の準備や避難をしましょう。

気象情報	避難情報	皆さんの行動
大雨注意報：大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表されます。		
大雨警報：大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表されます。		
さらに大雨が続くと…　土砂災害のおそれが高まる！		
土砂災害警戒情報：大雨による土砂災害発生の危険性が高まった場合に発表されます。この情報は、自主避難の判断等に利用することを目的としています。		
大雨特別警報：数十年に一度の大雨等が予想された場合に、発表します。		
土砂災害による避難情報の発令の判断基準		
避難準備・高齢者等避難開始 ●大雨警報が発表され夕方の時点で翌朝までの大雨が想定される場合。 ●夜間に土砂災害警戒情報が発表される可能性がある場合	**避難準備・高齢者等避難開始** 災害による人的被害の発生する可能性が高まった状況	お年寄り、子ども、障がいのある人、病気の人など、避難に時間を要する人は、避難行動を開始してください。
避難勧告 ●土砂災害警戒情報が発表された場合	**避難勧告** 災害による人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	避難所などへ避難を開始してください。屋外への避難が困難な場合は、建物の２階以上（斜面と反対側の部屋）に緊急的に避難しましょう。
避難指示（緊急） ●近隣で土砂災害が発生 ●近隣で土砂移動現象、前兆現象（山鳴り、流木の流出、斜面の亀裂等）を発見した場合	**避難指示（緊急）** 切迫した状況であり、災害による人的被害の発生する可能性が非常に高いと判断された状況	避難所などへ直ちに避難してください。屋外への避難が困難な場合は、建物の２階以上（斜面と反対側の部屋）に緊急的に避難しましょう。

警戒区域における避難の呼びかけ

田野町は、次の流れ図に従い、関係住民に呼びかけを行います。

気象情報が発表されたとき



土砂災害の前兆現象を知り、危険から身を守ろう！

土砂災害の特徴と前兆現象

がけ崩れ	土石流	地すべり
雨や地震などの影響によって斜面が突然崩れ落ちる現象です。	石や土砂が、集中豪雨などによって水と一体となり、下流へ一気に流れ出す現象です。	大雨などでゆるくなった斜面が、ゆっくりと斜面下方へ動き出す現象です。

⚠ 次のような前兆現象に注意し、危険を感じたら速やかに避難しましょう！

がけ崩れ	土石流	地すべり
●小石がパラパラと落ちてくる ●がけから水が湧き出ている ●がけにひび割れができる	●山鳴りがする ●川の水が濁り流木が混ざる ●雨が降り続いているのに川の水位が下がる	●地面にひび割れや段差ができる ●地鳴りがする ●沢や井戸の水が濁る ●斜面から水がふき出す

地　震

地震発生から避難・避難後までの行動マニュアル

地震発生

南海地震では
約100秒～180秒つづきます
（最大クラスの場合、180秒以上揺れる地域も）

まず、身を守る

クッションや座布団などで頭を保護。
丈夫な机やテーブル下などに隠れる場合はテーブルの足をしっかり持つこと。

非常脱出口の確保

玄関、窓を開けて逃げ口を確保。

揺れがおさまってただちに
津波の危険地域はすぐ避難

揺れがおさまったら 家族の安全確認

靴または底の厚いスリッパを履く

靴または底の厚いスリッパを履き、ガラスの破片や散乱物から足を守る。

家族の安全確認

倒れた家具の下敷きになっていないか確認。

火元の確認

ガスの元栓を締め、ブレーカーを落とす。
もし火が出ていたら、あわてずに初期消火を。

余震に注意しつつ 隣近所の安全確認

隣近所への声かけ

けが人、行方不明者がいないかを確認する。

火災時には協力して初期消火

津波による浸水の恐れのない地域では、大声で知らせて、消火器、バケツリレーなど近隣で協力して初期消火を。

避難場所到着から3日

デマにまどわされず、正確な情報を収集

正しい情報を聞く

ラジオ等で正確な情報を収集。
役場、消防、警察、自主防災組織の情報を確認。

電話は緊急連絡を優先

安易に電話をかけることは避け、安否の確認は「災害用伝言ダイヤル」等を活用する。

災害時要援護者を支援

家屋倒壊の危険があればすぐに避難

避難後は助け合いの心で行動を

地域ぐるみで協力して応急救護の体制を

倒壊した家やその危険性のある家には入らない

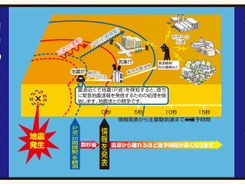
水・食料の確保

いざというときのために、日頃から最低でも3日分の飲料水と食糧の備蓄を。

災害情報、被害情報の収集

緊急地震速報

緊急地震速報は、最大震度５弱以上と推定した地震の際に、強い揺れ（震度4以上）の地域の名前を強い揺れが来る前にお知らせするものです。



○「緊急地震速報」は、震源近くで地震（P波、初期微動）をキャッチし、位置、規模、想定される揺れの強さを自動計算します。地震による強い揺れ（S波、主要動）が始まる数秒～数十秒前に、素早くお知らせします。

○ただし、震源に近い地域では、「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。

震度６弱

●立っていることが困難になる。
●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度６強

●立っていることができ、はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。
●耐震性の高い木造建物は、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度７

●固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
●耐震性の低い木造建物でも、まれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが多くなる。